

取締役会議長メッセージ



企業価値向上に向けた ガバナンス体制の進化を図ります。

社外取締役 取締役会議長

上田 良樹

2023年度を振り返って

社外取締役からの意見や提言を真摯に受け止めていただき、取締役会の実効性は着実に上がっています。昨年、表面処理関連製品を生産、販売する欧州企業グループの大型買収案件が付議されました。表面処理事業の強化に加えて、同企業グループとのシナジーを発揮して、表面処理事業のグローバルトップを目指す戦略投資です。巨額の資金を要する案件であり、その是非について何回も取締役会で議論を重ねました。最終的に将来の成長に必要な買収として承認されましたが、取締役一人一人が当社やステークホルダーにとってのプロス・コンスを真摯に検討し、何度も討議を重ねた上で結論を導き出しました。健全な取締役会運営ができていると思います。一方、取締役会のさらなる機能向上に向けた取り組みを進めます。コーポレート・ガバナンス・コードは「経営方針や経営戦略などを議論することで取締役会における審議を活性化する」ことを要請しています。最高の意思決定機関である取締役会においては、個別の決議事項、報告事項に加えて、審議事項として「会社の持続的成長や中長期的な企業価値向上に向けた議論」を行う必要があります。特定の結論を導くことが目的ではなく、多様な視点から議論をすることで中長期的な経営戦略を構築し、経営陣の目線合わせをしていくものです。また、付議基準については、都度見直しはしていますが、その要件について常に現状に照らして確認する必要があると考えます。

当社グループの課題

事業ポートフォリオの再構築と前中期経営計画「Plus」で掲げた収益力向上の加速です。この二つは表裏一体です。会社が有する経営資源は限られており、事業の選択と集中は不可避です。将来の成長と収益性の観点から事業を見直し、収益の拡大余地の大きい分野や成長ポテンシャルの高い分野に経営資源を傾斜配分していくべきです。事業の選択と集中を行うことで会社の進むべき方向が明確になり、事業効率が最大化され、収益が拡大します。日本企業は停滞から成長に向かう大きな転換点に立っています。市場構造の変化や地政学リスクの増大など四面の環境は激しく変化しており、企業側も構造改革を加速して、変化・対応していくなければなりません。

2024年度に向けて

私は社外取締役ですが、取締役会議長と指名報酬委員会委員長に加えて、取締役会長を任せています。社外取締役なので執行には関わりませんが、より深く執行状況を注視しながら、時には攻めのガバナンスを発揮して、全てのステークホルダーにとって、より強く良い会社になるように協働していきたいと思います。新東工業は2034年に創立100周年を迎えます。新東工業には長年に亘り素材分野に関わってきた素晴らしい歴史と実績があります。また、優秀な人財も多数います。今年度から新中期経営計画「共創」が始まりますが、事業ポートフォリオの再構築を加速し、人的資本を最大限活用して、次の100年も成長し続ける企業になるための進化作業を推し進めもらいたいと思います。私たち社外取締役も、健全なガバナンスを発揮しながら、その活動を後押しして参ります。